

平成22年度

水源地域活性化調査委託業務

(事業名 大学と地域の連携による『長沼プロジェクト』社会実験事業)

報 告 書

平成23年3月

公立大学法人 宮城大学

【概要版】

1 事業概要	概要-1
2 取組の企画・立案	概要-3
3 活動によって得られた成果	概要-7
4 社会実験事業の検証	概要-9
5 研修及び事例調査	概要-11
6 課題と今後の活性化方策	概要-12

【本 編】

1 事業概要

1.1 事業の背景	1
1.2 取組の意義と目的	3
1.3 長沼プロジェクトの概要	4
1.4 取組の体制	6

2 取組の企画・立案

2.1 行動プランづくりの予条件	7
2.2 学生による行動プランの提案	8
2.3 社会実験事業「里沼SATO-NUMA感謝祭in長沼」の企画・立案.....	16

取 組 ①

3 里沼 SATO-NUMA 感謝祭（その①）週末型イベント

3.1 活動の内容と結果	24
3.2 活動によって得られた成果	27

取 組 ②

4 里沼 SATO-NUMA 感謝祭（その②）季節型イベント

4.1 活動の内容と結果	28
4.2 活動によって得られた成果	32

5 社会実験事業の検証

5.1 アンケート調査結果	33
5.2 学生（総合研究グループ）の考察結果からの検証.....	82
5.3 参加者、関係者の評価・感想等からの検証.....	49

6 研修及び事例調査

6.1 水源地域活性化リーダー研修	51
6.2 流域連携に関する研修及び地域活性化調査.....	55
6.3 パークマネジメント事例調査	63

7 課題と今後の活性化方策

7.1 『長沼プロジェクト』の課題集約.....	67
7.2 『長沼プロジェクト』による今後の地域活性化方策	68

大学と地域の連携による『長沼プロジェクト』社会実験事業

【概要版】

1. 事業概要

1-1. 取組の意義と目的

現在、長沼ダムは平成24年度完成に向けて、治水ダムにレクリエーションスポーツ事業を加えた多目的ダムとして整備が進められており、水の里としての発信力強化が課題となっている。また、地域においては長沼ダムの完成を好機として捉え、若手青年実業家及びダム周辺住民等で構成する「長沼プロジェクト推進協議会準備会（以下、協議会準備会という）」が平成21年度に組織された。この協議会準備会は、ダム湖と長沼フートピア公園の一体的な活用による流域連携や観光交流の活性化、地域ビジネス開発等の可能性を探っており、21年3月に『里沼SATONUMAブランドの発信基地』をコンセプトとするアクションプランを登米市長に提言している。

このような背景から、ダム周辺の利活用においては、創意工夫による魅力ある顧客サービスの提供と企業的経営による持続可能な体制や仕組みづくりが期待され、産学官民の多様な主体のパートナーシップによる試行的取組への機運が高まっている。

本調査では、「水源地域の活性化につながる活動の立ち上げ、試行段階からの支援を行う」という調査の趣旨を踏まえ、効果的な社会実験事業を行い、水の里としての発信力強化と継続的な事業実施のための仕組みの構築を目指すものとする。

平成24年度 長沼ダム完成予定

長沼ダムは平成24年度の完成に向けて、治水ダムにレクリエーションスポーツ事業を加えた多目的ダムとして整備が進められている。

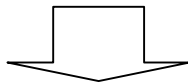
地域においては長沼ダムの完成を地域活性化の好機として捉え、若手の実業家や長沼の関係団体、周辺住民等で構成する「長沼プロジェクト推進協議会」を組織化している。

克服すべき課題は！

◆既存施設、フートピア公園の再活性化

◆周遊・滞在への足掛かりとなる事業展開

◆多様な主体の参画による運営・管理



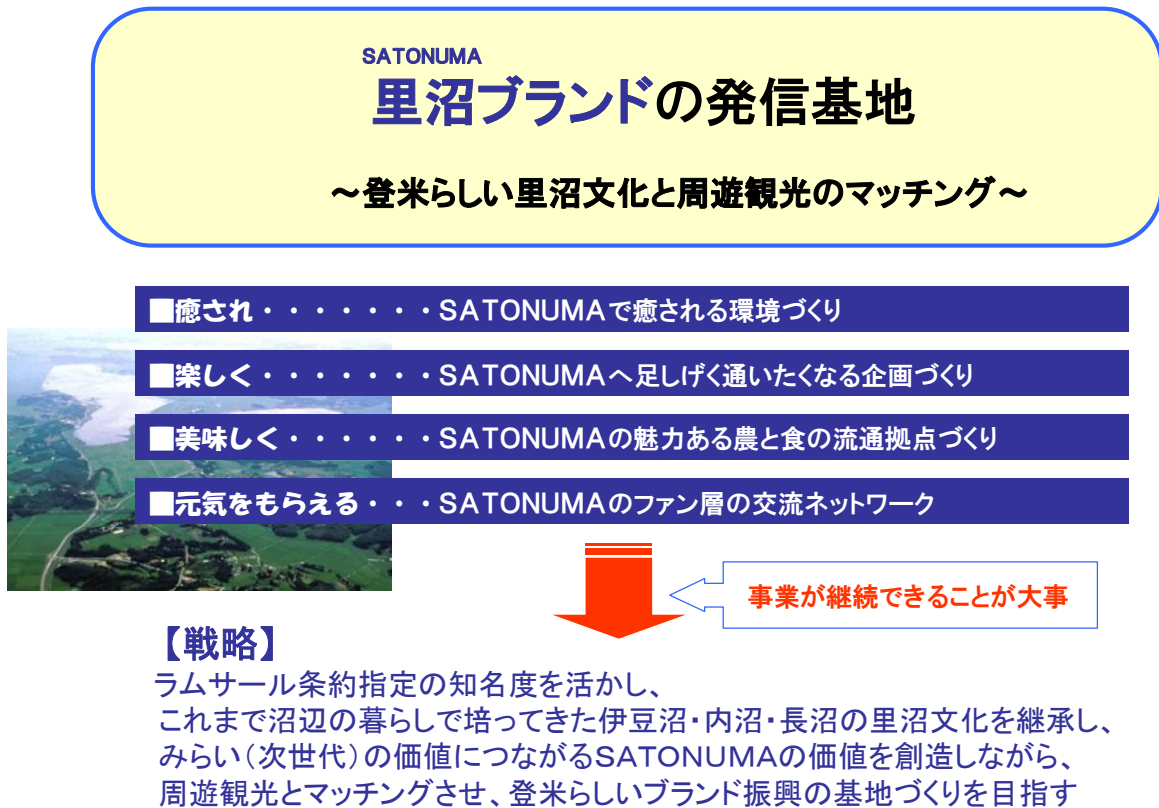
ポイント:

水の里としての発信力強化と
継続的な事業実施のための仕組みの構築

1-2. 長沼プロジェクトのコンセプト

長沼プロジェクトのコンセプトは、里沼SATONUMAブランドの発信基地をテーマにして、登米らしい里沼文化と観光のマッチングを図ること。長沼フートピア公園を基地として、人々が「癒され」、「楽しく」、「美味しく」、「元気をもらえる」ための顧客サービスの充実を図ることにより、地域の農業、商業、工業、及び観光の連携・協働を目指すものである。

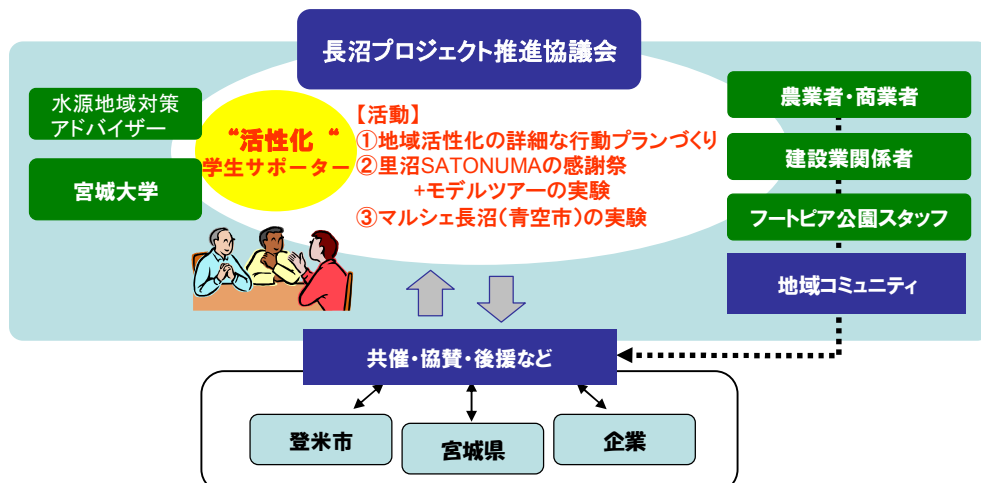
図1-1 コンセプト・イメージ



1-3. 取組の体制

本業務は、宮城大学と長沼プロジェクト推進協議会が連携しながら、“登米らしい里沼文化と周遊観光のマッチング”をテーマに社会実験の企画・実施に取り組むものとする。また、商品開発やイベント等は、学生のサポーターチームを組織し、企画立案・事業運営の一部を担当する。

図1-2 取組の体制



2. 取組の企画・立案

2-1. 行動プランづくりの予条件

(1) 試行事業の練り上げ

地域活性化の詳細な行動プランづくりでは、地元の協議会等が検討してきた既存の地域活性化提案メニューを大学と地域の連携の視点で洗い出し、“水の里”のポテンシャルを活かした試行事業を展開できるように企画・立案する。また、学生の提案を引き出して事業メニューの絞り込みや社会実験の実施のための体制整備を行う。

(2) 既存の地域活性化提案メニュー

協議会準備会がまとめた地域活性化のための提案メニューを大学と地域の連携で練り上げていながら、優先順位を明らかにし、試行的な事業実施のための行動プランを作成する。

特に、既存のダム周辺施設等公園のパフォーマンス向上のためのショップ・レストラン機能やアクティビティ機能のあり方について、企画・立案し、試行につなげる。

図2-1 協議会の提案メニュー

●長沼ダム周辺での事業、◎登米市内に向けた交流連携事業、○登米市外に向けた交流連携事業

交流連携機能	地域活性化のための提案メニュー(協議会案)
ガイド機能	●長沼フートピア公園の施設管理とトータルコーディネート ●レストハウスの再活用 ●環境を活かした癒しの公園づくり ◎関係団体やNPO、個人との連携(他団体とのマッチング) ◎市内グリーンツーリズムの受付窓口 ◎長沼を拠点とした市内ツアーやモデルコースの検討 ○登米市の観光協会としての機能
ライブラリー機能	●長沼フートピア公園の宣伝・PR ◎伊豆沼・内沼とタイアップした誘客と宣伝 ◎登米市の観光情報の管理・更新機能の充実 ○市外物産館内等へのPRブースの設置 ○市外でのPRイベントの開催
ショップ・レストラン機能	●ふるさと物産館(物販機能)の充実 …産直施設の充実 …登米市の顔となる商品の販売、新商品の開発 …ジュンサイや沼エビなど沼資源の復活とブランド化 ●ふるさと物産館(飲食機能)の充実 …レストランメニューの改善 ●ふるさと館 …農家レストランにし地産池消の拠点にする ○市外での産直店や物産館の運営
アクティビティ機能	●定期的なイベントの開催(コンサート、アウトドアイベント等) ●貸しボートの営業(スワンボート) ●湖周道路のサイクリングロード、マラソンコースなどの計画 ●釣り客の呼び込み ●長沼ダムを活かした社会科見学の誘致
コミュニティ機能	●ふるさと館を子供達の寺子屋にする(学童保育機能) ◎小中学校と協働でのチューリップ畑や花壇の整備

2-2. 社会実験事業 「里沼 SATO-NUMA 感謝祭 in 長沼」の企画・立案

(1) 実施方針

～「里沼感謝祭in長沼」の主旨より～

古くから、長沼の沼辺に人々が暮らし、集落を形成し、漁業などの生業、夏場の水遊び場、蓮祭りなど、人と自然が共に生きる価値観を共有してきた。

今日、人々の生活形態が変化し、長沼と地域の付き合い方や関係も希薄になりつつあるが、もう一度、その価値や魅力を再発見し、「里沼（SATONUMA）」という新しい価値を創造し、里沼文化を内外に伝え、発信していきたい。

里沼 SATO-NUMA 感謝祭 in 長沼

仕事の間、遊びの間そして祭りの間として人々の暮らしと共にある長沼を「里沼（SATONUMA）」と呼び、その豊かな文化を広く皆様にお伝えし、長沼のもたらした恵みに感謝する場として「里沼SATO-NUMA感謝祭in長沼」を企画する。

(2) 日程

平成22年10月23日（土）冒険あそび場づくりワークショップ・・・【週末型】

平成22年10月31日（日）マルシェ長沼・・・【季節型】

(3) 主催

- ・長沼プロジェクト推進協議会
- ・長沼ふるさと物産株式会社
- ・長沼漁業協同組合
- ・(特非)伊豆沼・長沼水環境ネットワーク
- ・宮城大学 地域連携センター地域振興事業部
事業構想学部 宮原総合研究グループ
食産業学部 石田研究室

(4) 広報、PR

「里沼SATO-NUMA感謝祭in長沼」の広報は、主にチラシによる配布及び直接関係する諸団体、主要施設管理者への協力要請を行うとともに、個別のメーリングリストやホームページ等を活用して広く情報発信した。

◇広報、PRの取組

- ・実行委員を通じた情報発信、口コミ
- ・登米市佐沼地区小中学校生徒（全高生）への配布
- ・登米市内公共施設への配付
- ・道の駅への配付
- ・仙台近郊の産直施設への情報発信、モニター参加依頼
- ・県のホームページによる情報発信

図2-2 広報チラシ（表）



図2-3 広報チラシ（裏）

里沼 SATO-NUMA 感謝祭 in 長沼

仕事の場、遊びの場そして祭りの場として人々の暮らしと共にある長沼を「里沼 (SATO-NUMA)」と呼び、その豊かな文化を広く皆様にお伝えし、長沼のもたらした恵みに感謝する場として「里沼 SATO-NUMA 感謝祭 in 長沼」を企画しました。

また、この感謝祭の企画には宮城大学の学生チームが加わり長沼の新しい価値を見直すことから始め、アイデアを出しながら地元の方々が協力して実現したものです。

長沼の豊かな秋の恵み、そして新たに見せる一面にどうぞご期待ください！

10/23(土) 冒険あそび場づくりワークショップ

集合場所：長沼フットピア公園 駐車場 総合案内コーナー（受付）

創作体験

対象：小学生高学年生（4年、5年、6年） プレイリーダー：宮城大学生
内容：プレイリーダーが子どもたちの創作体験をサポートします。

- ① 廃ポートアート体験 > 廃ポートをペイントしてオブジェ・花壇を制作します！
- ② 流水サイン創作 > 流木を組み合わせ、彫刻してサインを制作します！

持ち物：汚れてもいい服、軍手、帽子
※参加者には、記念のわんさくスタンプがもらえます。

移動屋台

■ 昭和の遊び場 だまし屋染校（昔ながらの駄菓子屋を屋台で再現）
■ 試食コーナー 【登米産の米粉を使ったデデミ（お米）の試食】 ※お土産に差し上げられます。





10/31(日) マルシェ長沼

集合場所：長沼フットピア公園 駐車場 総合案内コーナー（受付）

軽トラ市

長沼周辺の産物から採れた新鮮な野菜・果物・加工品等が軽トラックの備け所に並びます。

長沼の贈り物展示コーナー

漁具、漁のし、漁の工芸品などを展示。長沼の海老を使った海老餅の餅つき大会・試食も盛りです。おアンケートは各者は参加を試験できます。

里沼音楽祭

はさま吹奏楽団とジャズバンド「スウィング」による生演奏！

思い出冒険ラリー

地図と案内サインをヒントに漁を冒険ラリーしながら、公園内に隠された約10名のポイントチームで協力して探し出す冒険ラリーです。
※フリー参加者には、記念のお土産を差し上げます。 ※どなたでも参加いただけます。

特別企画 「紅葉の長沼」を訪ねるモニターツアー【モニター募集先着15名】 無料

秋の長沼と周辺の山々の紅葉、ゆっくり舟を浮かべ、長沼の美しさを味わいながら優雅なひと時を過ごしませんか？

運の恵みを感じるモニター限定プラン（日帰りプラン） 長沼の漁具、漁の美しさ名人の技、漁の美しパン試食など
仙石駅から無料送迎バスがでます！ 集合場所 仙石駅西口 貸し切りバス待合所（受付） 集合時間 9:00
お車で現地に行かれる方 現地集合場所 長沼フットピア公園 駐車場 総合案内コーナー（受付） 集合時間 11:00
※モニター 決定者には、事前に旅行案内をお送りします。 ※モニターには長沼内産物アンケートにご協力をお願いいたします。
お申し込み・お問い合わせ 下記の実行委員会までお気軽にご連絡ください。

主催：「長沼プロジェクト」社会実験事業実行委員会

お問い合わせ「長沼プロジェクト」社会実験事業実行委員会 事務局 TEL: 0000000000 FAX: 0000000000

（協力団体）長沼プロジェクト推進委員会・長沼漁業委員会・長沼漁業共同組合
・特定非営利活動法人 長沼・長沼水産漁業センター
・宮城大学 地域連携センター 地域連携事業部 事業推進室 長沼地区研究グループ 企画運営部 企画研究部

3. 活動によって得られた成果

3-1. 週末型イベント活動の成果

(1) 実施事業の成果

この週末型イベントの主な成果としては、大きくは環境に配慮した事業としての地域の認知や子どもの参加・体験活動を通じた利用活性化の機会提供、滞在型拠点としての魅力向上等があげられる。

表3-1 実施事業の成果と課題

実施事業	成果	実施体制上の課題
事業全般		
	・環境に配慮した事業の認知 ・子どもの参加・体験活動を通じた利用活性化の機会提供 ・滞在拠点としての魅力向上	[準備] ・資源調査の掘り下げ ・学校区等の地域コミュニティに根ざした企画の積み上げ [調整] ・関連イベントとの連携による相乗効果の発揮 [実施] ・新たな担い手の育成、確保
個別事業		
創作体験		
■廃ボートアート体験 (4艘)	・エコロジーへの動機づけ ⇒身近な資源のリサイクル ・廃ボートの再活用 ・クルーザーの再利用 ・アートによる空間演出 ⇒参加型公園運営の実験 ・オブジェや花壇への衣替え	・廃ボート情報の収集・整理 ・配置、デザイン方針などの基本プランの練り上げ ・イベント後の管理のあり方 ・同時期開催の登米アートトリエンナーレとの連携
■流木サイン製作	・園内の周遊性確保 ⇒滞在型利用の提案 ・案内誘導の仕掛け ・コストを掛けない整備	・人文的資源調査の掘り下げ ・全体のサインコミュニケーションの体系化
■思い出冒険ラリー準備	・裏方作業のイベント化 ⇒小道具の準備・体験 ・体験学習機会の提供 ・ゲーム性の導入	・学校やPTA、自治組織等の準備段階からの巻き込み ・プレイリーダーの育成
移動屋台		
■だがし屋楽校	・ファミリー層の誘客 ⇒もう一つの居場所作り ・対面販売/売上25,000円 (仕入れの約60%)	・品揃えの充実 ・商工会青年部等との連携強化
■試食コーナー	・地元産米粉のPR	・ふるさと物産館との協働によるレシピ開発

(2) 実施体制上の課題

実施体制上の課題として、資源調査の掘り下げや学校区等の地域コミュニティに根ざした企画の積み上げ、関連イベントとの連携による相乗効果の発揮、新たな担い手の育成、確保等を抽出する。

今後は、準備・調整・実施の各段階で、きめ細かな実行計画の積み上げを行い、内発型イベントとして定着させていく必要がある。

3-2. 季節型イベント活動の成果

(1) 実施事業の成果

この季節型イベントでは、本番を迎える直前の台風の影響でモニターのキャンセルが相次いだ。また、当日も小雨混じりの悪天候のなかにあり、利用客の出足が鈍かった。

得られた成果は、収穫祭の積み重ねによる定着や新たな商品開発や魅力再発見、特技をもった名人や音楽グループの参画など、活動の輪が広がった点である。

表3-2 実施事業の成果と課題

実施事業	成果	実施体制上の課題
事業全般		
	・収穫祭の積み重ねによる定着 ・新たな商品開発や長沼の魅力再発見 ・特技をもった名人や集団等のボランティア参画	[準備] ・長沼の水環境や潜在的な食資源調査の掘り下げ [調整] ・マルシェ長沼の主催団体の早めの調整 [実施] ・周遊モデルの継続的な開発
個別事業		
マルシェ長沼（青空市）		
■マルシェ長沼（直売会） 出店：12店	・「直売会」による収穫祭の定着 ⇒直売会と大学の協働 ・地場産新鮮野菜販売 ・新米試食、特産品販売 ・竹とんぼ作り、大抽選会	・早い段階での事業調整 ・秋の収穫祭（直売会）と里沼感謝祭（実行委員会）の広報の一本化 ・天候不順時（雨天時）の対策
長沼の贈り物展示コーナー		
■蓮茶・蓮の実パン	・新たな商品メニューの提案 ・食産業学部学生の提案 ・試飲、試食（好評）	・蓮の実の成分分析 ・量産の可能性検討（今回はモニター限定）
■長沼のエビ餅	・郷土料理の魅力再発見 ・試食（好評）	・長沼の潜在的食資源の保全（蓮の実、沼エビなど）
■蓮の実弁当（漁協）	・新たな商品メニューの提案 ・試験販売（希少性評価）	〃
■蓮の工芸品（漁協）	・新たな商品メニューの提案 ・試験販売（希少性評価）	〃
里沼の音楽祭		
■音楽演奏・舞踊	・地元音楽グループとの連携 ⇒公園ボランティア・ネットワークの形成	・参加型公園運営の仕組み構築
「紅葉の長沼」を訪ねるモニターツアー		
■案内ガイド（長沼遊覧ほか）	・名人の案内による長沼再発見 ⇒モニター参加者8名 ・長沼伝説、長沼八景 ・長沼遊覧は概ね好評	・蓮の花が最盛期となる夏の長沼遊覧復活 ・周遊モデルの整備（ダム完成と長沼八景ガイド）

(2) 実施体制上の課題

実施体制上の課題として、長沼の水環境や潜在的な食資源調査の掘り下げやマルシェ長沼の主催団体の早めの調整、周遊モデルの継続的な開発等があげられる。

今後は、一年を通した季節型イベントの企画・立案を行い、その実施に向けた実施体制づくりや事前調整に早い段階から取り組む必要がある。

4. 社会実験事業の検証

4-1. 参加者、関係者の評価・感想等からの検証

(1) 実施事業の成果

この週末型・季節型の一連のイベントに関して、参加者や関係者の評価・感想等から検証し、集約・整理する。

アンケート結果については標本数の問題があるが、今後の取組に有用な満足度や希望するイベント、ツアーへの支払意思額等に関する情報が得られた。

表4-1 評価・感想等からの検証

対象	成果・評価	実施体制上の課題・改善提案
参加者		
■一般来場者	[満足度] ・屋台（だがし屋楽校）、蓮茶、マルシェ長沼（青空市）が概ね好評価 [今後希望するイベント] ・特産品の販売、舟による長沼遊覧への希望大	・子どもの冒険遊びの改善提案
■ツアー参加者	[満足度] ・蓮の実パン（試食）、長沼の遊覧と温泉の順に好評価 ・案内人の人柄、愛情 ・つくたてのお餅 ・蓮、沼エビなどの地場の食材 [支払意思額] ・仙台発着 2,643円/平均 ・現地集合 1,800円/平均 [今後希望するイベント] ・音楽・コンサート、昔の伝承遊び等への希望有り	[活性化の課題] ・長沼の資源の掘り起こし、ラムサールなど環境のアピール、市内のイベントの相互調整、積極的な広報PRや情報発信、中心となる事務局体制の強化など [改善提案] ・マルシェの賑わい、特徴付け ・秋の長沼の魅力案内、エピソードなどの説明 ・若者にうける蓮の工芸品のデザイン ・蓮の実パンの作り方説明 ・主催者の役割分担の明確化 ・タイムスケジュール管理
関係者		
■実行委員会メンバー (学生考察から)	[好評価] ・新鮮な学生の発想 ・違う視点からのアイディア ・子どもたちの笑顔、子どもと学生の触れ合う姿 ・ワークショップというイベント性のある実験 ・公園内に満遍なく人が滞在しているような状況をつくるための多様な行動の誘発 ・地域の材料（使われなくなった廃材）の利用 ・準備段階を創作ワークショップとして提案	[準備] ・地元での密な話し合いや情報交換の重要性 [調整] ・主張が孤立しあう地域や人々、他のプロジェクトを学生が柔軟かつないでいくことの効果 [実施] ・創作ワークショップの継続的な取組への期待

(2) 実施体制上の課題

実施体制上の課題として、長沼の資源の掘り起こし、ラムサールなど環境のアピール、市内のイベントの相互調整、積極的な広報PRや情報発信、中心となる事務局体制の強化などに総合的に取り組む重要性が指摘された。

また、個別の事業メニューにおいては、マルシェの賑わいと特徴付け、秋の長沼の魅力案内、ピソードなどの説明、若者にうける蓮の工芸品のデザイン、蓮の実パンの作り方説明、主催者の役割分担の明確化、タイムスケジュールの管理等の改善が求められた。

さらに、地元の関係者との意見交換のなかからは、地元での密な話し合いや情報交換の重要性、主張が孤立しあう地域や人々、他のプロジェクトを学生が柔らかくつないでいくことの効果、創作ワークショップの継続的な取組への期待等が出された。

今後は、こうした参加者や関係者の声に耳を傾けて、週末型あるいは季節型イベントの企画の磨き上げを行い、多様な主体の相乗効果（精神的・経済的な効果）を生み出せるような実施体制を確立していく必要がある。



イベント終了後に実行委員集合

5. 研修及び事例調査

5-1. 水源地域活性化リーダー研修

(1) 流域連携による地域活性化への示唆

研修から得られた地域活性化への示唆としては、特産品の高付加価値化による地域ブランドの確立や独自の市場ルート開発、地元の次のリーダーを育てるという意識、需要喚起のための社会実験、教育旅行の可能性検討等を列記することができる。

また、地域活性化の2つ取組事例から得られた地域活性化への示唆としては、本音を引き出せる調査、資源の管理、活用のための新たな仕組みの構築、魅力ある高齢者の活躍機会の提供、地縁型組織とテーマ形組織の連携・協働、耕作放棄地を活用した地域農産物の生産、農産物に付加価値をつけるブランド品開発と6次産業化等がある。

表5-1 地域活性化への示唆

調査事例	特徴的な取組	地域活性化への示唆
水源地域活性化リーダー研修		
■高級田舎ブランドへの挑戦	・3セク「株式会社おおよま夢工房」の設立 ・福岡市に情報発信拠点整備 ・高級梅酒の製造・販売 ⇒JALの機内で提供 ・宿泊施設（ひびきの郷）、水辺の郷（道の駅）などを運営	・特産品の高付加価値化による地域ブランドの確立 ・独自の市場ルート開発 ・地元の次のリーダーを育てるという意識
■日田市 日田市観光協会	・PRが課題 ⇒ウェブの活用 需要喚起に向けたツアー ・第3種旅行業取得 ⇒学習意欲のある人を呼び込むことが重要	・需要喚起のための社会実験 ・教育旅行の可能性検討
NPO法人ひろしまねの取組事例		
	・集落の悉皆調査 ⇒手間はかかるが、本当に知りたいことを聞き出すためには必要な作業 ・もう一つの役場 ⇒集落支援センターの必要性 ふるさと信託機構（仮称） ・名人のやる気 ⇒知恵と技術を持った魅力ある高齢者	・本音を引き出せる調査 ・資源の管理、活用のための新たな仕組みの構築 ・魅力ある高齢者の活躍機会の提供
NPO法人元気むらさくぎ取組事例		
	・農作業受託及び農業支援 ⇒農地の保全、耕作放棄地の多目的有効活用 ・冬期間の新たな事業展開による安定的な収入確保 ・作木村時代の地域コミュニティの再構築 ・指定管理委託料の減額 ⇒計画的、効率的な運営	・地縁型組織とテーマ形組織の連携・協働 ・耕作放棄地を活用した地域農産物の生産 ・農産物に付加価値をつけるブランド品開発と6次産業化

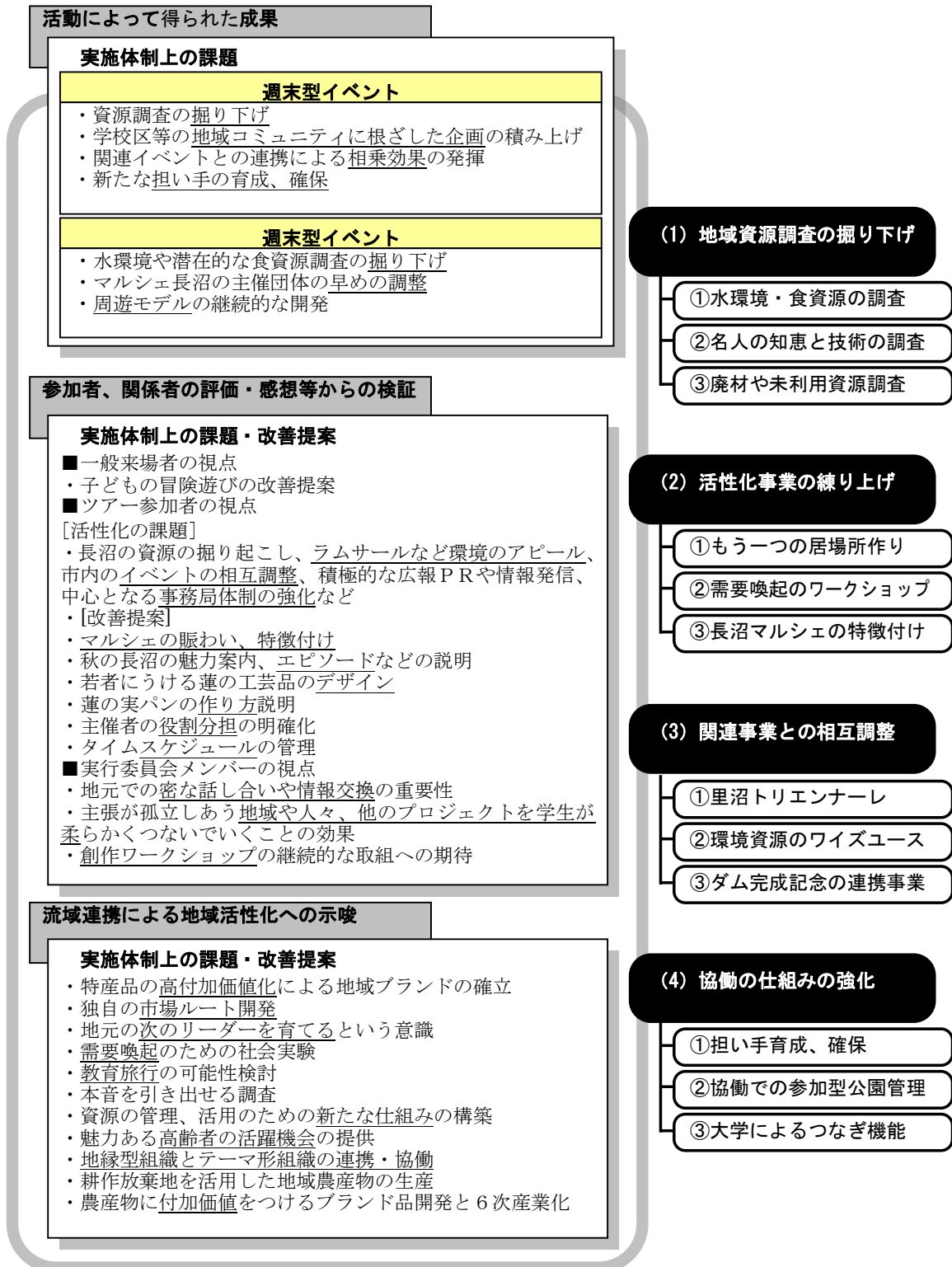
6. 『長沼プロジェクト』の課題と今後の活性化方策

6-1. 『長沼プロジェクト』の課題集約

ここでは、実施体制上の課題や改善提案の内容に着目し、課題を集約する。

今後の『長沼プロジェクト』の課題は多岐にわたっているが、特に力を入れて取り組むべき課題として、地域資源調査の掘り下げや活性化事業の練り上げ、関連事業との相互調整、協働の仕組みの強化の4つに整理する。

図6-1 課題の集約



大学と地域の連携による『長沼プロジェクト』社会実験事業

【本 編】

1. 事業概要

1-1. 事業の背景

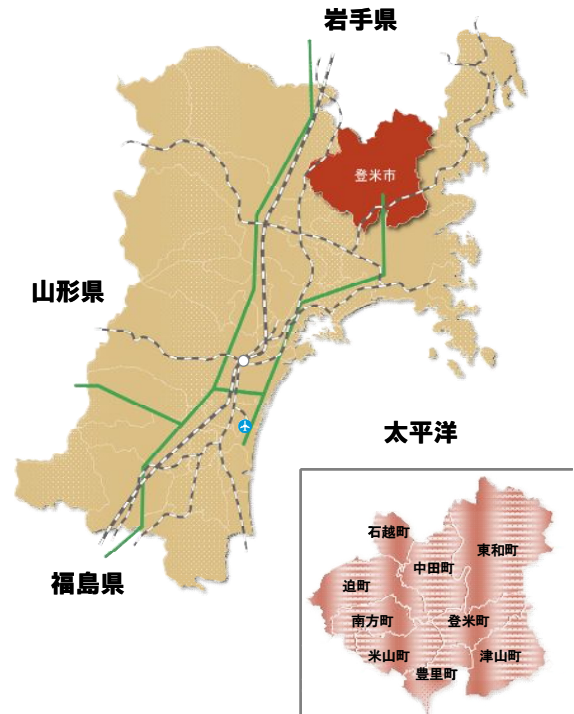
(1) 位置及び概況

登米市は、平成17年4月1日に、石越町、東和町、豊里町、登米町、中田町、迫町、南方町、米山町、津山町の9町の合併により誕生した市で、宮城県の北東部に位置し、北部は岩手県に接する。

市内には、白鳥やガン等が飛来するラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼、内沼を始め、長沼、平等沼、迫川や北上川などがあり、水の里としての様相を呈している。

平成21年3月に、仙台市から岩手県宮古市に至る三陸縦貫自動車道登米ICが開通し、仙台圏や石巻圏への移動時間が短縮された。

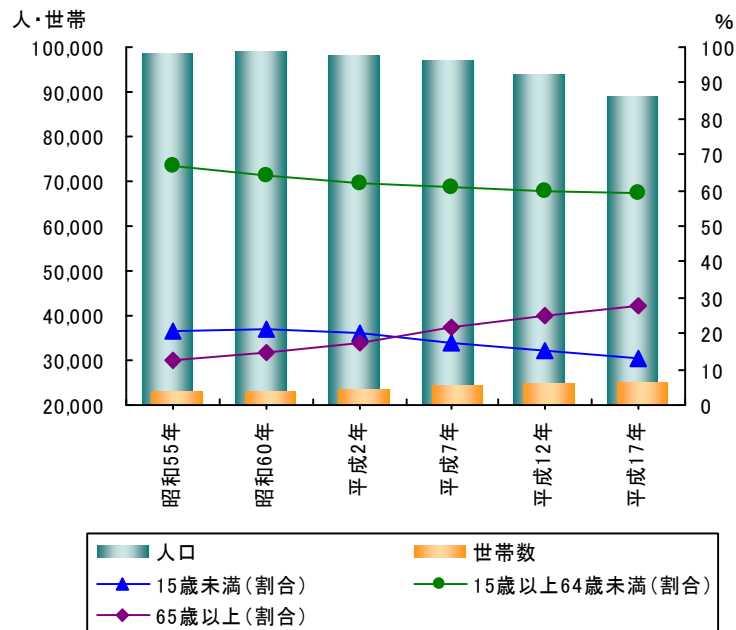
図1-1 登米市の位置



(2) 登米市の人口

平成17年国勢調査による登米市の人口は89,316人で、昭和30年より減少が続いている。世帯数は25,048世帯で、年々増加傾向にある。

図1-2 登米市の人口と世帯



(3) 登米市の産業

広大で平坦肥沃な登米耕土の恩恵を受けた稲作が盛んであるが、平成17年の国勢調査による第一次産業の就業者数の割合は16.8%と年々減少傾向にあり、第三次産業の割合が増加している。

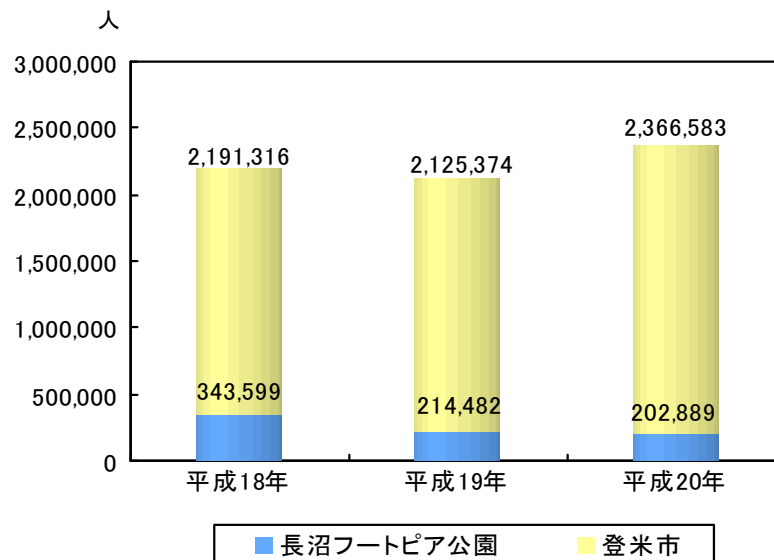
観光統計概要による登米市への観光入込客数を見ると、平成20年の入込数は2,366,583人となっているが、うち登米市内に宿泊した割合は1.7%に留まり、地域への経済的波及効果が小さい。

長沼フートピア公園は、登米市の西側、迫町北方地区の長沼のほとりにあり、オランダ風車「白鳥」がシンボルの公園である。周辺には、ラムサール条約指定登録湿地で白鳥や雁の飛来地で有名な伊豆沼、内沼、蕪栗沼といった湖沼があり、また、長沼は有数のハスの繁殖地で夏には長沼ハスまつりも開催される。

公園内には、キャンプ場、チューリップ園、全長111mのローラーすべり台やアスレチック等の遊具があり、桜の花見や、「ふるさと花火in長沼」などでも、市民や来訪者の憩いの場となっている。また、隣接して長沼ボート場やB&G海洋センターなどがある。

観光統計概要による、長沼フートピア公園の平成20年の入込数は202,889人で、過去3年間の推移を見ると、減少傾向にあり、水の里のポテンシャルを活かしきれていない。

図1-3 登米市の観光入込みの推移



1-2. 取組の意義と目的

現在、長沼ダムは平成24年度完成に向けて、治水ダムにレクリエーションスポーツ事業を加えた多目的ダムとして整備が進められており、水の里としての発信力強化が課題となっている。また、地域においては長沼ダムの完成を好機として捉え、若手青年実業家及びダム周辺住民等で構成する「長沼プロジェクト推進協議会準備会（以下、協議会準備会という）」が平成21年度に組織された。この協議会準備会は、ダム湖と長沼フートピア公園の一体的な活用による流域連携や観光交流の活性化、地域ビジネス開発等の可能性を探っており、21年3月に『里沼SATO-NUMAブランドの発信基地』をコンセプトとするアクションプランを登米市長に提言している。

このような背景から、ダム周辺の利活用においては、創意工夫による魅力ある顧客サービスの提供と企業的経営による持続可能な体制や仕組みづくりが期待され、産学官民の多様な主体のパートナーシップによる試行的取組への機運が高まっている。

本調査では、「水源地域の活性化につながる活動の立ち上げ、試行段階からの支援を行う」という調査の趣旨を踏まえ、効果的な社会実験事業を行い、水の里としての発信力強化と継続的な事業実施のための仕組みの構築を目指すものとする。

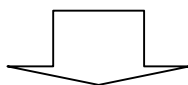
平成24年度 長沼ダム完成予定

長沼ダムは平成24年度の完成に向けて、治水ダムにレクリエーションスポーツ事業を加えた多目的ダムとして整備が進められている。

地域においては長沼ダムの完成を地域活性化の好機として捉え、若手の実業家や長沼の関係団体、周辺住民等で構成する「長沼プロジェクト推進協議会」を組織化している。

克服すべき課題は！

- ◆既存施設、フートピア公園の再活性化
- ◆周遊・滞在への足掛かりとなる事業展開
- ◆多様な主体の参画による運営・管理



ポイント:

水の里としての発信力強化と
継続的な事業実施のための仕組みの構築

1-3. 長沼プロジェクトの概要

(1) 長沼フートピア公園の概要

長沼フートピア公園は登米市の西側、迫町北方地区の長沼ダム（建設中）のほとりにあり、有数のハスの繁殖地でもある。

総面積：12ヘクタール

公園内の施設はすべて登米市が直営で運営しており、施設管理等は主にシルバー人材センターへ委託している。

また、ふるさと物産館は長沼ふるさと物産（株）が登米市から公有財産の貸付を受けて運営。隣接する迫B&G海洋センターは登米市教育委員会、長沼ボート場は宮城県が所有している。

（アクセス）

JR東北本線新田駅から車で15分
東北自動車道築館I.Cから車で30分
東北自動車道古川I.Cから車で40分
東北新幹線くりこま高原駅から車で30分

（主要施設）

- ・ 公園案内所
- ・ ふるさと物産館
（産直：登米市内の野菜、花、果物、農産加工品などを販売。）
- ・ 食堂：うどん、そば、カレーライス等の他、郷土料理の”はっと”も提供。）
- ・ キャンプ場（一般サイト40張 200人、オートキャンプサイト10区画）
- ・ カヌーやボートの体験 長沼ボート場
- ・ 駐車場（普通自動車180台、大型車5台）
など

図1-4 長沼フートピア公園の位置



図1-5 長沼フートピア公園の施設



(2) 長沼フートピア公園をめぐる地域活性化の課題

登米市は9町の合併により誕生した新市であり、市内で様々な団体が活動しているが個々の動きが中心になっており、地域の一体感の醸成が課題となっている。また、地域の特産品を活かしたブランド化への取り組みが始まり、一部の地域で「あぶら麴井」を登米市のB級グルメとして売り出そうというような運動の盛り上がりがあるが、市全体の活性化の底上げという意味では、多様で豊かな地域資源を活かし、どのように地域のブランド振興につなげていくかが大きな課題となっている。

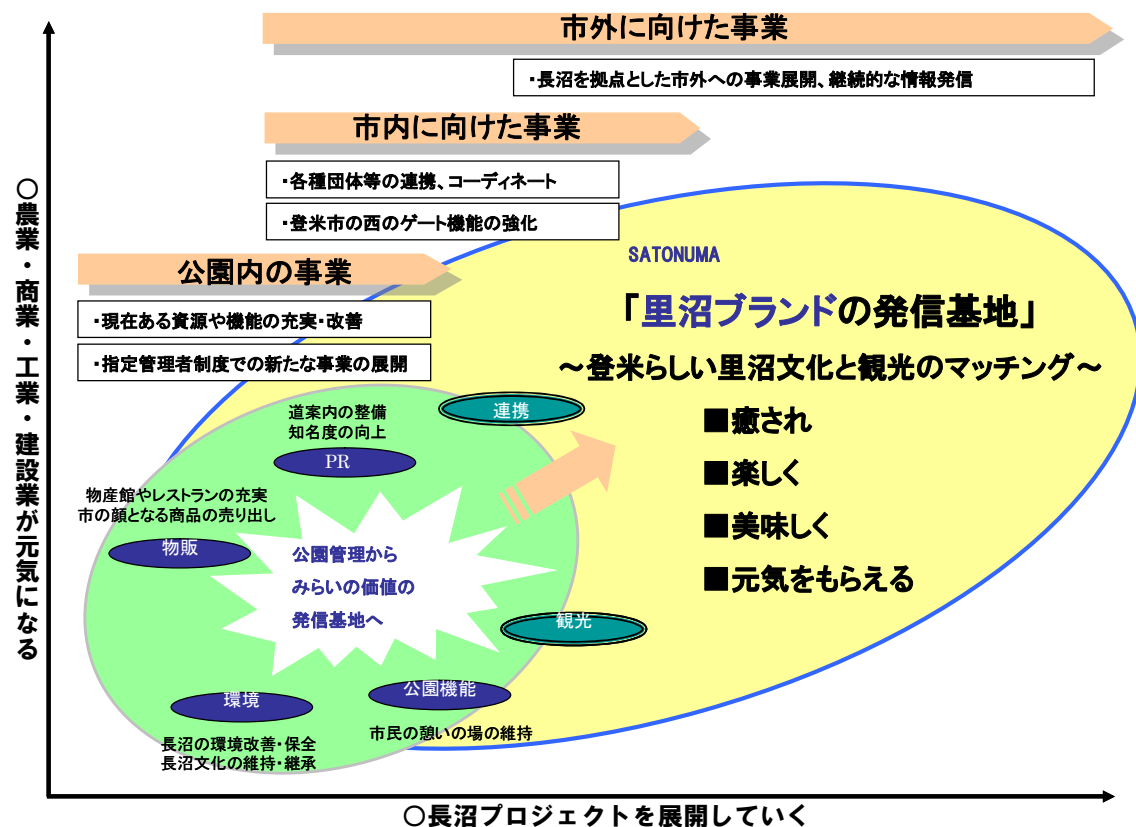
一方、長沼フートピア公園の運営をめぐることは、ふるさと物産館やキャンプサイト、長沼ボート場などの有機的な連携による相乗効果の発揮が必要となっている。また、施設ごとに外部への委託がなされているが、公園全体の常駐職員体制や広報PR不足などにより、入込客数が年々落ち込んでおり、公園全体の一体的な経営が求められている。

(3) 長沼プロジェクトによる地域活性化の仮説

「長沼プロジェクト」は、長沼フートピア公園の基点に交流連携を促進し、登米市の新たな地域価値の発信基地づくりを進める事業である。

登米市の西の玄関口の長沼ダムに隣接する長沼フートピア公園を市民憩いの場として活用しつつ、登米らしい里沼文化と観光のマッチングを図ることにより、ブランド振興の基地として登米市内外の交流ネットワークを形成し、地域の活性化につなげていく。

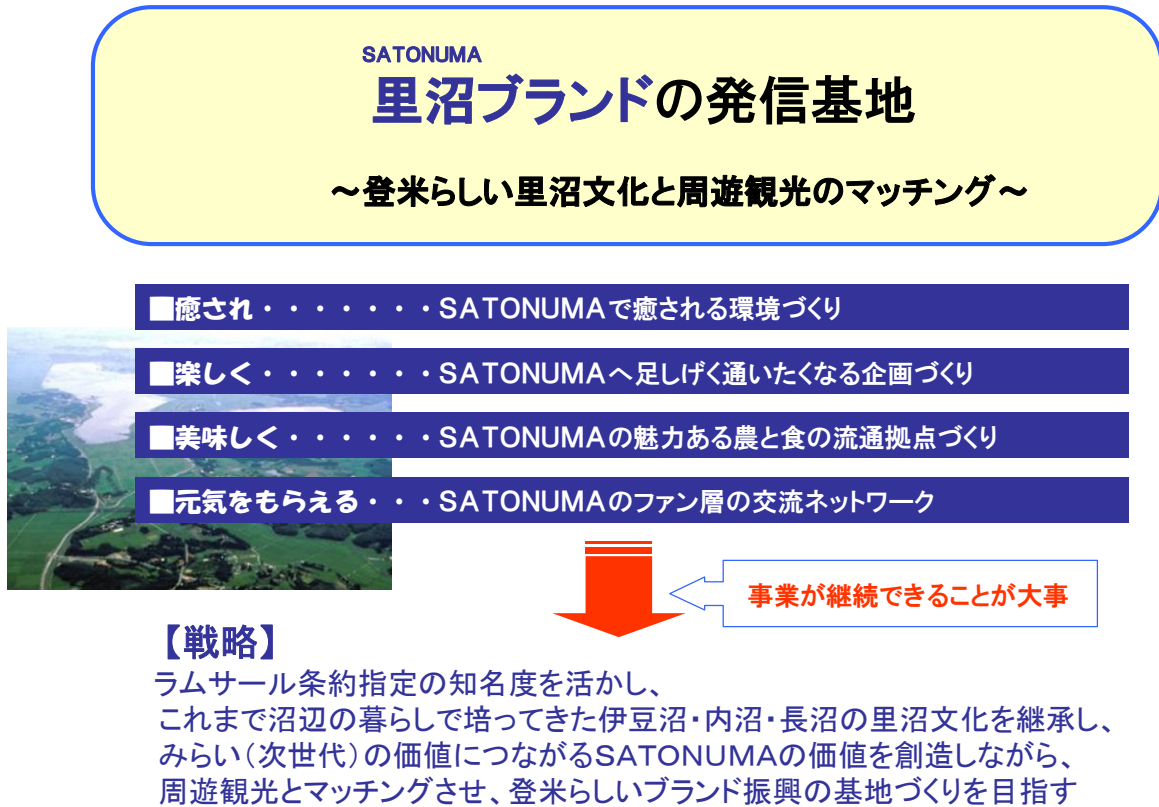
図1-6 地域活性化の仮説イメージ



(4) 長沼プロジェクトのコンセプト

長沼プロジェクトのコンセプトは、里沼SATO-NUMAブランドの発信基地をテーマにして、登米らしい里沼文化と観光のマッチングを図ること。長沼フートピア公園を基地として、人々が「癒され」、「楽しく」、「美味しく」、「元気をもらえる」ための顧客サービスの充実を図ることにより、地域の農業、商業、工業、及び観光の連携・協働を目指すものである。

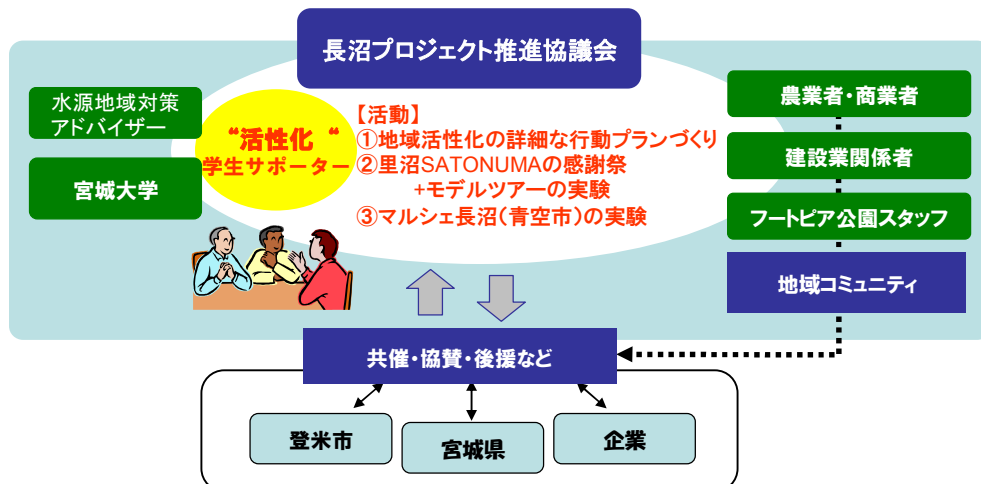
図1-7 コンセプト・イメージ



1-4. 取組の体制

本業務は、宮城大学と長沼プロジェクト推進協議会が連携しながら、“登米らしい里沼文化と周遊観光のマッチング”をテーマに社会実験の企画・実施に取り組むものとする。また、商品開発やイベント等は、学生のサポーターチームを組織し、企画立案・事業運営の一部を担当する。

図1-8 取組の体制



2. 取組の企画・立案

2-1. 行動プランづくりの予条件

(1) 試行事業の練り上げ

地域活性化の詳細な行動プランづくりでは、地元の協議会等が検討してきた既存の地域活性化提案メニューを大学と地域の連携の視点で洗い出し、“水の里”のポテンシャルを活かした試行事業を展開できるように企画・立案する。また、学生の提案を引き出して事業メニューの絞り込みや社会実験の実施のための体制整備を行う。

(2) 既存の地域活性化提案メニュー

協議会準備会がまとめた地域活性化のための提案メニューを大学と地域の連携で練り上げていながら、優先順位を明らかにし、試行的な事業実施のための行動プランを作成する。

特に、既存のダム周辺施設等公園のパフォーマンス向上のためのショップ・レストラン機能やアクティビティ機能のあり方について、企画・立案し、試行につなげる。

図2-1 協議会の提案メニュー

●長沼ダム周辺での事業、◎登米市内に向けた交流連携事業、○登米市外に向けた交流連携事業

交流連携機能	地域活性化のための提案メニュー(協議会案)
ガイド機能	●長沼フートピア公園の施設管理とトータルコーディネート ●レストハウスの再活用 ●環境を活かした癒しの公園づくり ◎関係団体やNPO、個人との連携(他団体とのマッチング) ◎市内グリーンツーリズムの受付窓口 ◎長沼を拠点とした市内ツアーやモデルコースの検討 ○登米市の観光協会としての機能
ライブラリー機能	●長沼フートピア公園の宣伝・PR ◎伊豆沼・内沼とタイアップした誘客と宣伝 ◎登米市の観光情報の管理・更新機能の充実 ○市外物産館内等へのPRブースの設置 ○市外でのPRイベントの開催
ショップ・レストラン機能	●ふるさと物産館(物販機能)の充実 …産直施設の充実 …登米市の顔となる商品の販売、新商品の開発 …ジュンサイや沼エビなど沼資源の復活とブランド化 ●ふるさと物産館(飲食機能)の充実 …レストランメニューの改善 ●ふるさと館 …農家レストランにし地産池消の拠点にする ○市外での産直店や物産館の運営
アクティビティ機能	●定期的なイベントの開催(コンサート、アウトドアイベント等) ●貸しボートの営業(スワンボート) ●湖周道路のサイクリングロード、マラソンコースなどの計画 ●釣り客の呼び込み ●長沼ダムを活かした社会科見学の誘致
コミュニティ機能	●ふるさと館を子供達の寺子屋にする(学童保育機能) ◎小中学校と協働でのチューリップ畑や花壇の整備

2-2. 学生による行動プランの提案

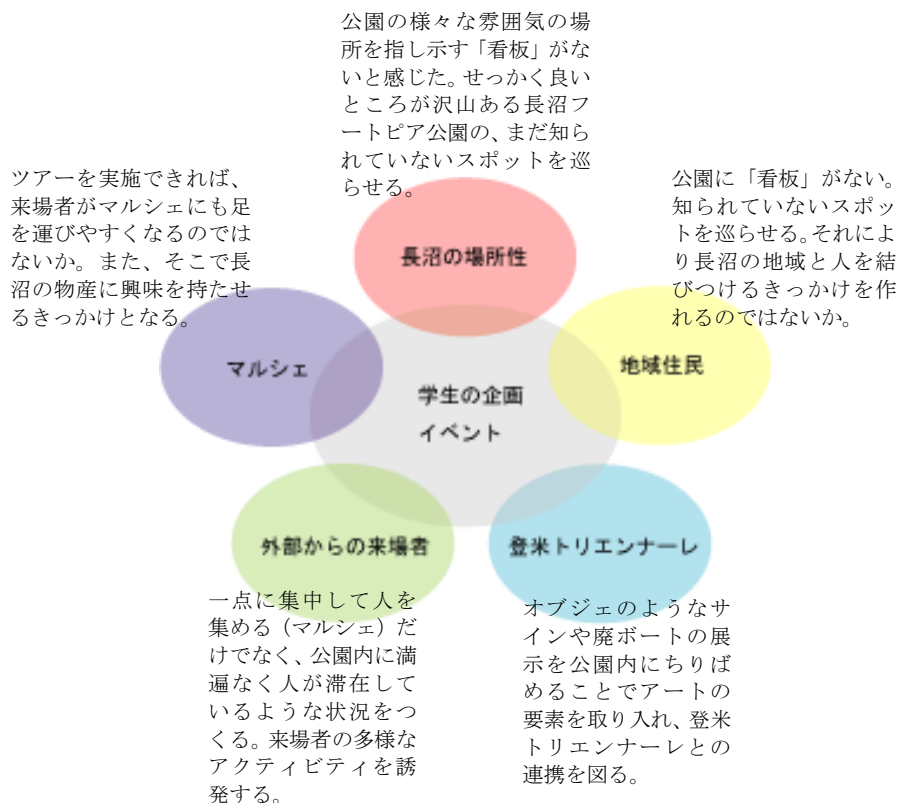
学生が地域の多様な主体のつなぎ役となって、事業の企画・立案を行いつつ、自らも長沼を舞台とした社会実験的な事業をコーディネートする。



(1) 「きっかけづくり」への着眼点

学生企画イベントが今回の「長沼プロジェクト」を推進するうえで、地域や人々、他のプロジェクトとの関係性や、それぞれとの関わりによる相乗効果を生み出す媒体となれるように配慮する。

図2-2 長沼プロジェクトへの着眼



(2) フィールドワークによる問題抽出

プロジェクトへの参加に伴い、数回に亘って長沼フートピア公園の調査を行っている。

その調査では、地域の象徴的な公園としてのポテンシャルは感じられたが、以下のような事前に想定していたイメージとは違う実態が浮かび上がった。

- ・コンセプトなく乱立する建物が並び統一感のない景観
- ・広い駐車場が有効に活用されていない
- ・沼の近くにあつて、内陸でありながら沼と大きく関わりある地域であるにも関わらず、公園と水の要素の関係、公園全体の親水性が薄い印象

こうしたフィールドワークの結果を基に学生チームは、公園全体にまんべんなく人が滞在しているような状況をつくる必要があるという課題を設定するとともに、長沼には身元の分からない廃ボートが多く沈んでしまっているということに着目し、これらの有効活用の可能性を提起した。

図2-3 長沼フートピア公園の問題点

地域の象徴的な公園としてのポテンシャル

しかし、



整備が行き届いていない環境

広い駐車場が有効に活用されていない

コンセプトなく乱立する建物が並び統一感のない景観

公園でありながら人が休めるような場所が少ない

シンボルであるはずのオランダ風車が動かない

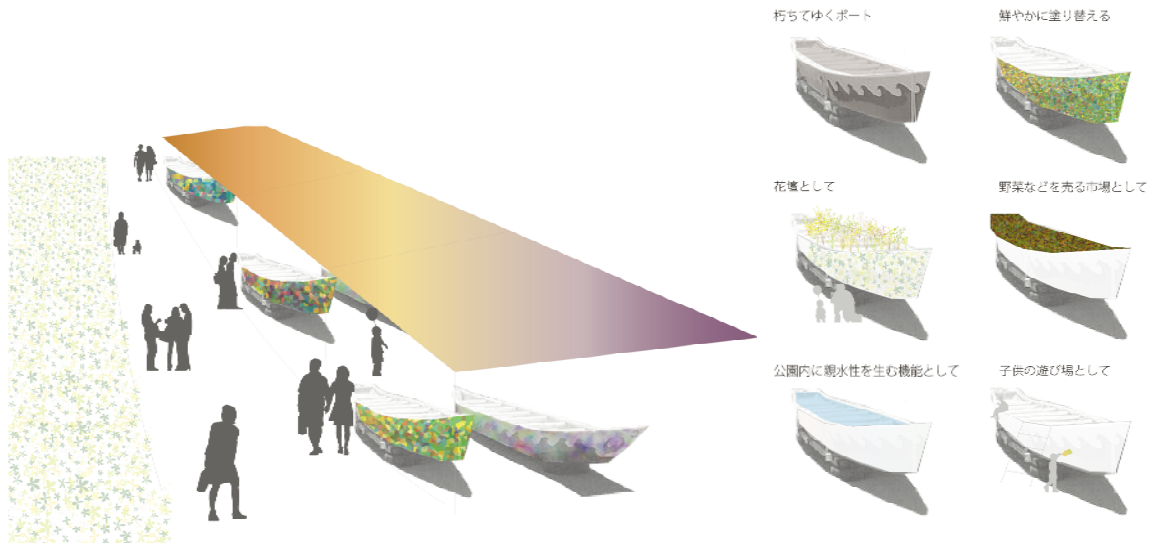
公園全体の親水性が薄い

(3) 長沼プロジェクトへの具体的な提案

① 廃ボートを用いたアートイベント

- ・ボートが使われなくなって朽ちてゆく前にアートとしての新たな命を吹き込む提案。
- ・展望台として、子供の遊び場として、公園内に親水性を生む機能として、公園を彩る花壇としてのボートの再利用。
- ・長沼フートピア公園は沼の近くにあつて、内陸地でありながら沼と大きく関わる地域なので、公園と水の要素の関係、公園全体の親水性を強める。

図2-4 廃ボート・アートのイメージ



◇廃ボート

現段階で用意できるボート 5 艘

ただし、貸与するものは色塗りしても良いがイベント終了後はもとのボートとして利用する意向。

数があまり多くないので、ボートを点在させすぎないほうが良い。

- ・プレジャーボート 2 艘（提供）
- ・木ボート 1 艘（提供）
- ・FRPボート 3 艘（貸与）

◇活用イメージとデザイン

プレジャーボートはそれぞれ展望台、子供の遊具として活用する。

展望台は、中の座席などを取り払い、ベニヤ板などで平らな足場をつくる。双眼鏡などが設置できればなお良い。

子供の遊具としては、中の座席をリニューアルして子供たちが陸上でボートに乗れるアトラクションをつくる。

展望台のほうは船体を訪れた方々が自由に文字や絵を描ける大きなホワイトボードにする（事前にペンキなどで真っ白に）。それ以外は花壇としての活用でできるようにする。

◇設置場所

展望台は駐車場の南側。子供の遊具は既存のアスレチック近辺の原っぱ（道路沿い）。

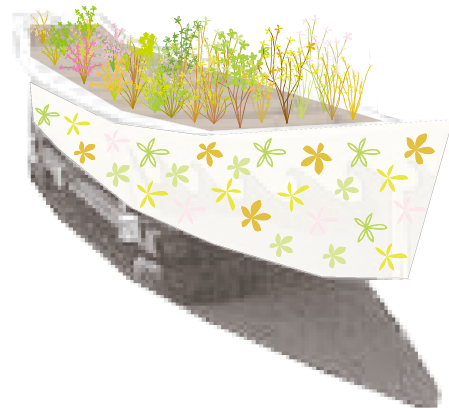
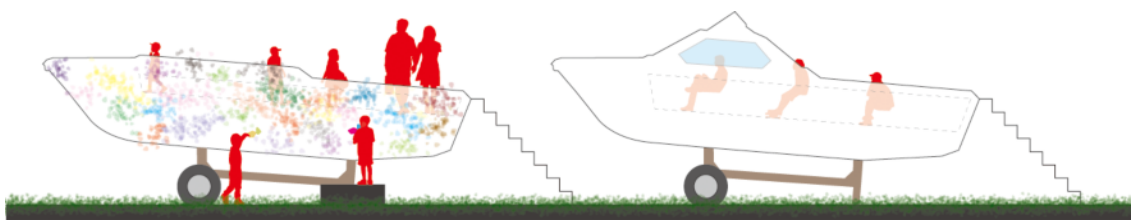
花壇は入り口付近に等間隔で設置する。

◇ワークショップの実施

プレジャーボートの設置や加工に関しては、事前に所有者と調整して準備する。

23日のワークショップでは色塗り、種まきなどを行い、花壇の外側には無数の花を描くなどしながらアートで公園空間を演出する。

図2-5 廃ボートのデザイン

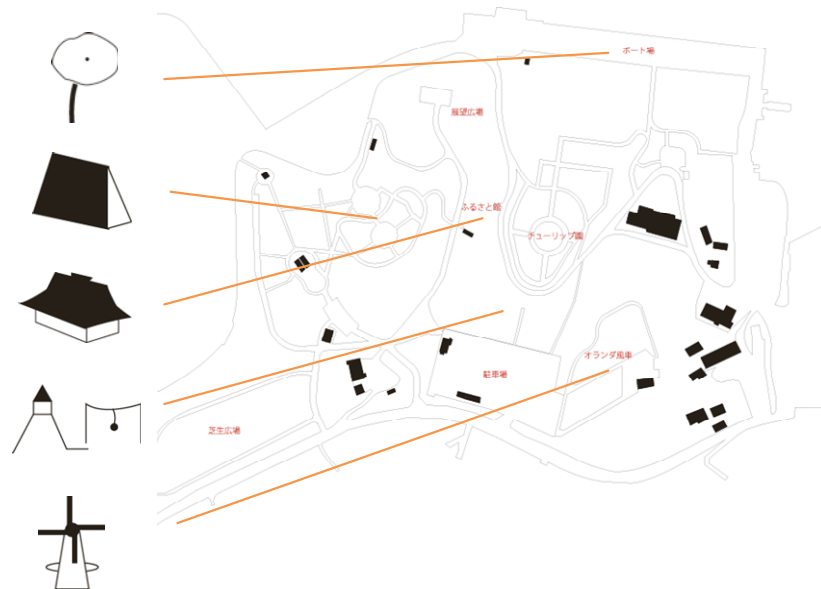


△使用されていないクルーザー

② 案内板-公園内への看板設置

- ・公園の中を歩き回るきっかけづくりの提案。
- ・使われることのなくなった流木を、案内板として活用する。
- ・イベントの一環としてみんなで案内板を制作することでコミュニケーションが生まれ、公園内ににぎわいが広がる。
- ・案内板に描かれたピクトグラムが各エリアを案内する。

図2-6 案内サインの設置イメージ



◇流木

事前に連絡をすれば取りに行くことが可能となり、10月1～2週目をめどに受け取りと準備に入る。

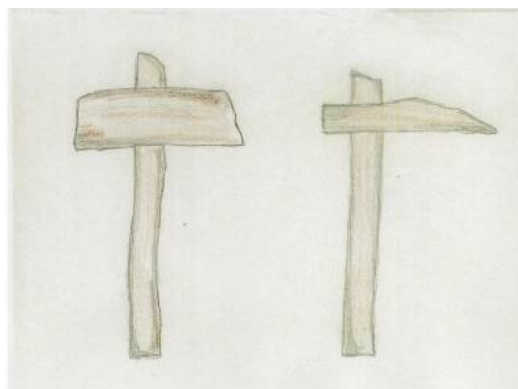
場所：大倉ダム、担当：阿部氏、TEL：022-393-2211

◇活用イメージとデザイン

案内板でコミュニケーションを生み出す。

流木を用いて、木の素材をそのまま生かしたものを考える。流木を2本組み合わせるものなど、数タイプを設置する。

ワンポイントとしてなにか絵やサインを描くのも有り。



△ワンポイントサイン

◇設置場所

ツアーの順路案内として活用する。
ツアー、ボートの企画とからめて順次決めていく。

◇ワークショップ

案内板は流木を組み立てるのが基本的な作業になるため、これは学生など中心となっていく。

左：縦の木材に、平たい板を合わせる。
文字や簡単なサインを書き込む。
右：長めの木材を2本使い、方向を示す。

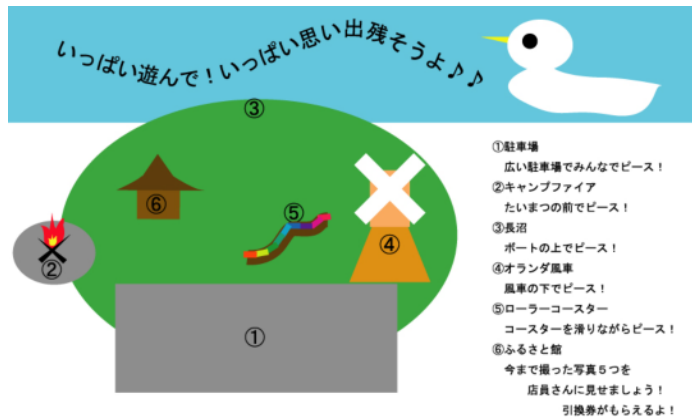


△流木を組み合わせたサイン・イメージ

③ 思い出冒険ラリー

- ・公園に集まりやすい小さい子供連れの家族を対象にした提案。
- ・価値を見出されにくいハスの実を材料として活用。
- ・地域住民、外部からの観光客が公園全体にまんべんなく点在しているような状況をつくる。
- ・制作した廃ボートアートや案内板も要素に取り入れた、各ポイントで7色に塗られたハスの実を集めてきてもらい、地元の食品と引き換えるシステムを提案する。

図2-7 冒険ラリーのイメージ



◇冒険ラリーの内容

思い出冒険ツアーの地図を持って子供たちに長沼フットピア公園内のあちこちに置いてあるスタンプを探して、自分の地図にスタンプを押してもらう。

公園内のあちこちを子供たちに巡らせることにより、今までに見えなかった長沼フットピア公園の良さを再確認してもらうツアーとする。

◇ポイントの設置場所

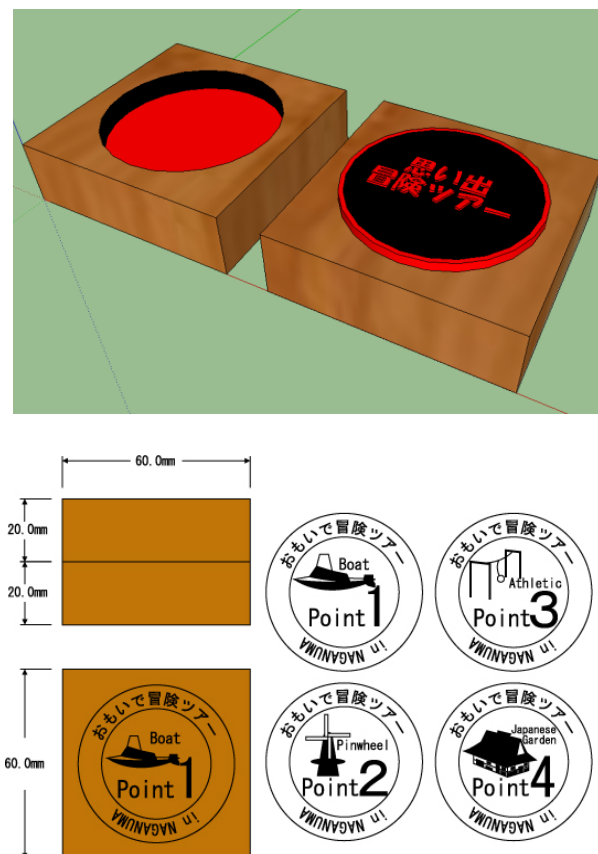
- ・巨大ボート 駐車場にあるボートの中にスタンプを設置
- ・風車 風車内にスタンプ設置
- ・遊具 遊具の上に設置
- ・水辺 長沼の水辺に設置
- ・日本庭園 ふるさと館の中に設置

◇スタンプ

スタンプは木製の箱型で開くと左下の図の様にスタンプの形がわかるようなシンプルなデザインとする。図には「思い出冒険ツアー」と書いて、実際は右下の図の様に各ポイントの絵の型のハンコとする。

サイズは右下の図のようなサイズとデザインの4つを、ハンコを作成する業者に頼むことを考える。

図2-8 木製スタンプのイメージ



(1) 社会実験事業の検討

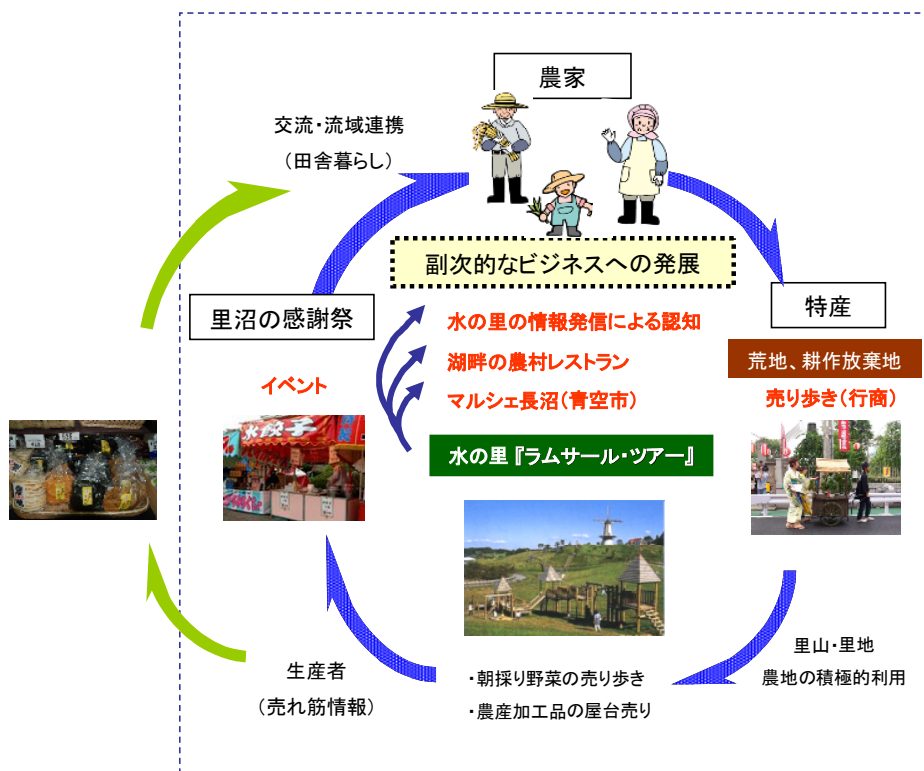
家族連れやカップルなどに軽食を中心に、地元の食材を活用しながらも手軽に食べられる青空市を長沼ふるさと物産等の団体と連携して実施する。

モデルツアーでは、伊豆沼～長沼の周遊や長沼八景めぐりなど、ダム完成年次を見据えたウォーキング、あるいは船での遊覧など、沼の風景を最大限に行かしたモデルルートの設定、それを活用した試行的なツアープログラムを企画・実施する。

上記の3案のイベントを評価し、顧客ニーズを明らかにすることにより、さらなる集客につながる持続可能な運営システムの構築を目指す。

- ・ふるさと館等の有効活用、水源地域資源等の魅力の再発見、リピーター確保
- ・試行的な取り組みによる潜在需要の掘り起こしと運営システムの最適化
- ・農・商・工・観光の連携によるすそ野の広い地域経済への波及効果

図2-9 週末型・季節型イベントの展開イメージ



(2) 週末型イベント

～冒険あそび場づくりワークショップ～

週末型イベントでは、特に、子どもやファミリー層の集客を見込んで、「創作体験ワークショップ」及び移動屋台を活用した「だかし屋楽校」の取組みを行うこととした。

また、これらの取組は、本番を迎える準備の一部として捉え、裏方作業を表のイベントとして企画することにより、参加型公園運営への展開を意識する。

① 創作体験

対象：小学生高学年生（4年、5年、6年）

内容：3つのコースに分かれてワークショップ

- 廃ボートアート体験
- 流木サイン創作
- 思い出冒険ラリーコース設計

※参加者には、記念のお土産を差し上げます。

② 移動屋台

- だかし屋楽校
- 試食コーナー

登米産の米粉を使ったチヂミ

※試食品には数に限りがあります。

図2-10 移動屋台の展開イメージ

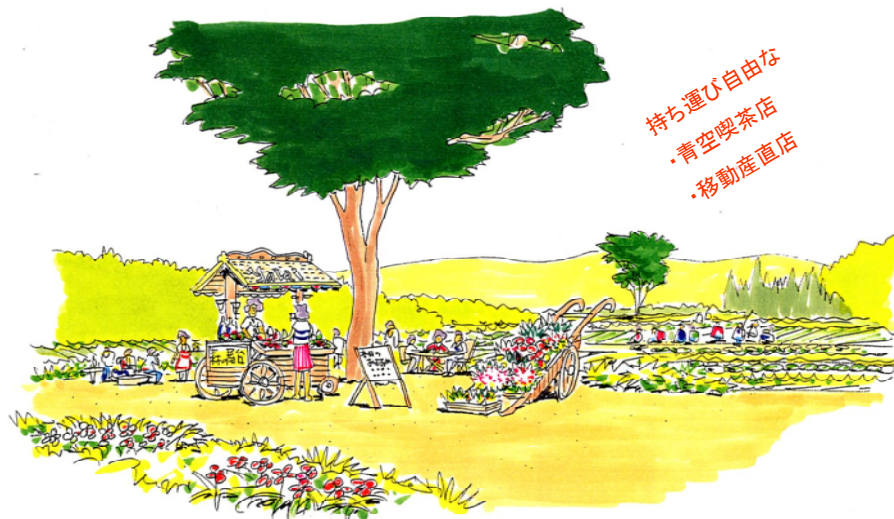
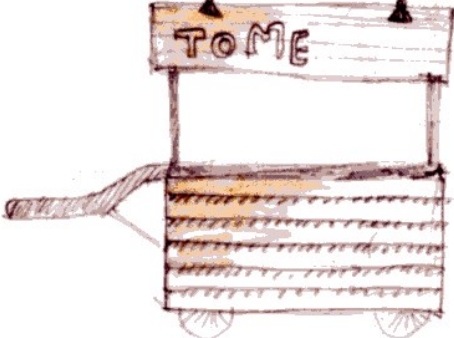
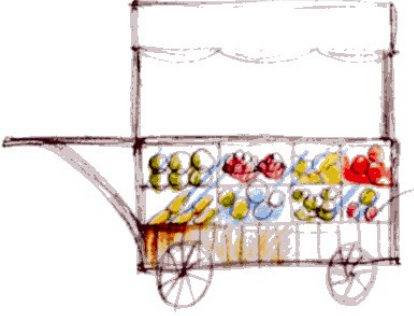


表2-1 移動屋台の試作デザイン・イメージ

タイプ区分	形態・機能	デザイン・イメージ
タイプ1	【形態】 ・既製のリヤカーを改造 ・地場産の木材を活用した化粧張り 【機能】 ・物販 ・飲食	
タイプ2	【形態】 ・既製のリヤカーを改造 ・木とアクリルの組み合わせデザイン 【機能】 ・駄菓子 ・くだものなどのショーケース	
タイプ3	【形態】 ・地元の精巧所の協力、連携で独自フレームを試作 ・流線型の形態デザイン 【機能】 ・物販 ・飲食 - 移動cafe (蓮茶)	

※これらの移動屋台の提案は、製作準備や活用主体、イベント終了後の有効な活用方策等に関する課題についての地元調整が長引き、残念ながら試作に至らなかった。

(3) 季節型イベント

～マルシェ長沼～

季節型イベントでは、特に、長沼ふるさと物産との協力・連携による「マルシェ長沼」の社会実験事業を行うこととし、秋の収穫祭として定着させるよう意図した。

具体的には、①テント村（軽トラ市）、②長沼の贈り物展示コーナー、③里沼の音楽祭、④思い出冒険ラリー、⑤「紅葉の長沼」を訪ねるモニターツアー等を提案し、このうち②④⑤のブースを宮城大学が受け持つこととした。

① テント村（軽トラ市）

(イメージ)



【宮崎県の川南町】
毎月の第4日曜日、月に1度の朝市が開かれる。トロントロン軽トラ市。その名の通り、農産物などを山積みにした軽トラが、川南町で一番の目抜き通り、トロントロン商店街に集結するイベントだ。
人口は約1万7000人だが、軽トラ市の日曜には少なくとも5000人、多い時は1万人近くが訪れる。



【岩手県の雫石町】
雫石商店街よしやれ通り 歩行者天国にて「しずくいし軽トラック市」を開催しています！新鮮な野菜や果物、海産物、工芸品等、自慢の品物を軽トラの荷台に乗せて直接販売。
普段なかなかお目にかかれない産地ならではの商品や格安商品が多数出品の予定
その他、イベント等も開催予定。

② 長沼の贈り物展示コーナー

例：蓮茶、蓮の実、蓮の工芸品 など

※ アンケート回答者は蓮茶を試飲できる。

③ 里沼の音楽祭

④ 思い出冒険ラリー

長沼フートピア公園の再発見のための冒険ラリー

※ラリー完走者には、記念のお土産を差し上げます。

～特別企画～

⑤ 「紅葉の長沼」を訪ねるモニターツアー